



合併の経緯 —大賀村—

今からおよそ60年前の昭和31年9月、1町6村が合併して大宮町が誕生しました。本号では、そのうちの一村、大賀村の合併の経過をたどります。

◇江戸時代の大賀村域

明治の合併で「大賀村」となる地域には、江戸時代初期には、岩崎村、久慈窪村、上大賀村、小祝村、別所村、横瀬村、上根本村の7か村が存在しました。このうち、久慈窪村は宝暦4年(1754)に久慈岡村と改称し、その後天保13年(1842)に上大賀村と合併しました。また、別所村は寛政12年(1800、一説に寛永年間とも)に富谷村と改称したといわれ、天保13年に小祝村と合併しています。横瀬村と上根本村も同年に合併し、鷹巣村となりました。つまり、江戸時代後半の天保13年以後は、岩崎村、上大賀村、小祝村、鷹巣村の4か村となっていたこととなります。

◇明治以後の大賀村域

岩崎村、上大賀村、小祝村、鷹巣村の4か村は、明治5年(1872)に施行された大区小区制では、山方村、舟生村などとともに8か村で第10大区5小区となり、明治8年には第4大区7小区になりました。その後、明治11年(1878)に施行された郡区編制法では4か村で一連合村となり、同17年の改正ではそこに照田村が加わっています。

明治22年(1889)に施行された町村制では、この4か村が合併し、大賀村と称することになりました。これによって、岩崎、上大賀、小祝、鷹巣の旧村は、大字(行政区)となって現在に至っています。

役場は明治24年、上大賀字下ノ岡715-2の大森一之介氏の所有地に建てられました。



▲大賀村役場跡(字下ノ岡)
中央高台の民家の左手に役場があった。台地の下を岩崎用水が流れている。

ここは、水戸と奥州を久慈川沿いに結び、国道118号線が整備されるまで使用されていた旧道「南郷道」に面していて、交通至便な場所だったことがわかります。台地の南の斜面には役場の正門があり、来訪者のための石段が設けられていたそうです。

その後、大正6年(1917)の暴風雨で庁舎が破損したため、字日渡385-2に移転改築し、大正7年2月に竣工しました(現在の大宮公民館大賀分館敷地)。以来、昭和31年(1956)に大宮町に合併するまで、大賀村役場はこの地にありました。



▲大賀村役場跡(字日渡)
大正7年以後大賀村役場が置かれた。中央の石柱は大正9年の第1回国勢調査を記念して建てられた。

◇大宮町への合併

昭和28年9月に町村合併促進法が施行されると大賀村は翌年2月に合併調査会を設置、大宮町・玉川村・上野村・静村・大場村・世喜村との合併協議に入りました。大賀村は当初から村を分離しない全村合併を掲げていました。そんな中、上大賀・岩崎・小祝地区で北隣の山方町への合併の気運が高まると、地区での協議の場を持ち、分村の危機を乗り越え、昭和30年3月、全村一致で大宮町への合併にこぎつけました。合併後、旧大賀村役場は大賀支所となりました。



▲大賀村事蹟簿(文書館蔵)
明治38年から昭和16年まで9冊の事蹟簿が残されている

稲葉庸治郎さんに聞き取り調査にご協力をいただきました。

【参考文献】

埴泉嶺『那珂郡郷土史』宗教新聞社 大正12年、三木隆太郎編『茨城県市町村総覧』昭和32年、茨城県総務部地方課編『茨城県市町村合併史』昭和33年、『大宮町史』昭和33年、『大宮町史』昭和52年

■問い合わせ■

常陸大宮市文書館 ☎ 52-0571